

## 第4回一関市教育振興基本計画検討委員会 会議録

- 1 会議名 第4回一関市教育振興基本計画検討委員会
- 2 開催日時 令和7年11月14日（金） 午前10時から午前11時30分まで
- 3 開催場所 一関市役所花泉支所 東大会議室
- 4 出席者
  - (1) 委員 塩竈素明委員、菅原正樹委員、勝部孝行委員、菅原正浩委員、  
齊藤耕子委員、佐々木弘克委員、八巻徹委員、森英隆委員、照井教文委員、  
館山壮一委員、北村正俊委員、鈴木理香委員、鈴木宏委員、  
千葉真美子委員
  - ※欠席者 千葉敏行委員、菊地桂子委員、千葉喜代一委員、菊地ワカ子委員、  
岩本智美委員、大石敦子委員、
  - (2) 事務局 時枝直樹教育長、千葉せつ子教育次長、藤倉忠光一関図書館長、  
佐々木修路副参事兼一関市博物館次長、  
氏家克典副参事兼文化財課長兼骨寺荘園室長、  
八木浩司副参事兼学校教育課長、小野寺和宏いきがづくり課長、  
千葉真学校教育課主幹、佐藤智一学校教育課学校教育係長、  
久保木賢学校教育課主任指導主事、  
木村修骨寺荘園室室長補佐兼骨寺荘園係長、千葉邦雄教育総務課長、  
鈴木真実教育総務課課長補佐兼教育企画係長、  
菅原光正教育総務課主査、鈴木星空教育総務課主事
- 5 協 議
  - (1) 総論について
  - (2) 分科会
    - ・各論について
- 6 公開、非公開の別 公開
- 7 傍聴者 1人（うち報道機関 1社）
- 8 時枝直樹教育長挨拶

本日は前回の委員会でいただいた意見を踏まえて修正作業を行った総論部分についてご審議いただく。議論の趣旨や思いが反映されているか、また市民の皆様に分かりやすい内容となっているかという点でご確認いただきたい。あわせて、本日は計画の具体的な中身となる各論の案についてもご審議いただきたい。この各論の部分が、実際に市民の皆様や小中学校の子どもたちに対する重要な課題となるので、忌憚のないご意見をお

願います。

## 9 勝部孝之委員長挨拶

本日の議題は、大きく2点ある。1点目は、前回活発にご議論いただいた総論の修正案についてご確認をいただくという点。2点目は、本日の中心議題となる具体的な施策をまとめた各論の協議である。この各論については、より専門的かつ効率的に議論を深めるため、分科会形式で行うこととしている。

本計画は、今後10年間の一関市の教育の方向性を決定づける極めて重要なものである。活発な議論をお願いします。

## 10 審議内容

### (1) 総論について

事務局より資料に基づき、説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 4ページの「5 地域・社会の持続的な発展の実現」と5ページの「2 学校運営の地域参画」に「参画」という言葉がある。一関市の学校運営協議会設置規則の中では「参画」という言葉はなく、あくまでも学校と地域については「参画」というよりも「支援協力」をしていくことを重点にしようという趣旨で規則が定められているため、「参画」という言葉ではなく「支援協力」という言葉を用いた方がよいのではないか。「支援協力」の方が各論案と合致し、さらに学校運営協議会の設置規則の趣旨にも合うのではないか。

事務局 学校運営協議会設置規則の内容を確認し、表現として適切なものを検討する。

委員 横断的重点事項2 グローバル人材育成について、この項目が協調されていることについて、どのような意図があるのか伺いたい。

事務局 「グローバル」という表現には、国際感覚、国際理解、コミュニケーション能力を高め、地球規模のさまざまな課題に対応できる人材を育成するという意図がベースにある。横断的重点事項では、このような地球規模の課題に対応できる「ひとづくり」を基盤に置き、各事業を展開していきたいという考えがある。

### (2) 分科会

・各論について

学校教育1、学校教育2、社会教育の3グループに分かれ分科会を行った。以下、質疑応答等。

#### ① 学校教育1

基本施策1-1：地域との連携・協働による特色ある学校づくりの推進

委員 この基本施策1-1から全体の順番について、どのような意図でこの流れや

項目になっているのか。施策の順番には、何か理由があるのか。

事務局 順番については、教育委員会として大事にしている順番で設定している。

委員 基本施策1-1のタイトルには、「連携・協働」と「特色ある学校づくり」の2つの要素が入っているが、具体的な連携・協働の内容が不明確であり、またその連携・協働によってどのような特色が生まれるのかも分かりにくい。この点をもう少し分かりやすくしないと、基本施策の最初のタイトルに見合う内容にならないのではないかと。

事務局 資料を確認し、適切な表現となるよう修正する。

委員 資料の図表について、一般的に表のタイトルは上につき、図のタイトルは下につくため、そこを統一してほしい。

事務局 図表タイトル記載箇所の統一を図り、分かりやすい資料となるよう修正する。

委員 表で、令和4年度、令和5年度の設置率が25.7%であり、令和6年度がいきなり100%になっているが、この最初の25.7%という数値は、学校側が任意で設置してきたものなのか。

事務局 令和4年度から令和5年度の実施については、できるところから進めていた。令和6年度においては、全ての学校で設置が完了できた。

委員 写真について、「大原の名人の仕事を探ねて（大原小学校）」とあるが、この写真が本文のどこに関連しているのか全く分からない。例えば、「特色ある学校づくり」の取組の一つとして、「このような活動を実施しています」という説明があれば理解できるが、それが資料になれば、いきなり大原の名人が出てきても、その意義を理解できない。本文との関連性を見直した方が、より分かりやすくなる。

#### 基本施策1-2：ことばの力を育てる教育の推進

委員 資料にある「1か月で一回も本を読まなかった生徒の割合の推移」のグラフについて、これだけを見ると、高校生が読まない傾向が多いということが問題のように思える。しかし、現状と課題には、このグラフに関する記述がなく、小学校の読書を推進するという個別施策が反映されている。高校生のデータをあえて入れた理由を伺いたい。

事務局 本計画は義務教育に関する資料でもあることから、高等学校についてのデータは参考として入れている。

委員 写真のレイアウトについて、施策1-1では左が写真で右が表であるが、施策1-2では右が写真で左がグラフになっている。このようなレイアウトに何

か意味があるのか。

事務局 写真の位置について、全体のレイアウトに関係することであるため、事務局全体で検討する。

委員 グラフの出典について、著作権にも関わってくるため、しっかり明記してほしい。

事務局 修正する。

#### 基本施策1-3：キャリア教育の推進

委員 危機管理マニュアルがキャリア教育に含まれているのは違和感がある。施策体系図で言えば施策4-3安心・安全で持続可能な教育施設の整備に含まれるのではないのか。

事務局 施策4-3は、教育施設の整備に関することであるため、含まれない。

委員 復興教育の一環として地域づくりの観点か、防災の観点かという2つの方向性があるのではないのか。

事務局 記載の重点をどこに置くか検討する。

委員 成果指標について、これは中学生だけの割合でよいか。小学生はキャリア教育の対象ではないのか。

事務局 小学生も対象に含まれているため、指標名を修正する。

#### 基本施策1-4：確かな学力を育む教育の推進

委員 現状と課題には、「どの学年の結果も全国平均と同等、またはそれ以上となっています」と書かれており、良好な状況に見えるが、総括の方では芳しくないという評価になっている。どのように捉えているのか伺いたい。

事務局 CRTが基準に対して良好で、全国学力状況調査が低いというのは問題の性質の違いによるものである。現在求めている力は全国学力状況調査になるため、CRTのような基本的なものはできているという考え方である。

#### 基本施策1-5：豊かな心を育む教育の推進

委員 「豊かな心」の定義について、豊かな心は道徳教育や体験活動だけではなく、芸術や文化も含まれるべきではないか。これだと豊かな心が全て道徳・体験・ボランティアに限定されてしまい、芸術や文化が切り離されているような印象を受ける。道徳教育・体験教育に特化しているということであれば、それを明確に記載する必要がある。

事務局 広い概念の中から重点的に具体化していく施策という位置付けで書いている。何か欠けた印象を与えるという点を解消できるよう修正する。

委員 個別施策について、一関市独自の取組をもう少し具体的に入れると、地域の

特色が出るのではないか。

事務局 各論部分については前期5年間を見通す形になっており、ここから具体的な取組が出てくるという構成になっている。

基本施策1-6：いじめ不登校への対応

委員 「ひとりひとり」という表記について、統一したほうが良いのではないか。

事務局 表記について確認し、修正する。

委員 命の大切さや生きることの教育は、いじめ防止の一環として扱うのではなく、いじめ・不登校と同等の重要性を持つものだと思う。この施策1-6の中だと、いじめの中に自殺防止や命の大切さの教育が含まれているので、扱いが軽くなっているように感じる。

事務局 内部でどこに重きを置くのかを考え、記載方法について検討する。

委員 成果指標で「学校が楽しいと思う児童生徒の割合」を高めていくという点について、そのために楽しい学校づくりをするという文言が個別施策の中になのが気になるため、個別施策にそういった内容を入れた方がよいのではないか。

事務局 それは横断的に捉えると、施策1-1の中で「魅力ある特色ある学校づくり」としてつなげていけると考えている。

基本施策1-7：自立して生きる力を支援する教育の推進

委員 小学校から中学校へのスムーズな移行という点を強調しているが、もう少し広い視点で捉えてほしい。

事務局 現状と課題の中にしっかりと位置付けた形で、具体策へとつなぐよう修正する。

委員 特別支援学級在籍児童生徒の割合について、小学生と中学生で分けたほうが良いのではないか。

事務局 検討する。

委員 基本施策の名称「自立して生きる力を支援する教育の推進」と、個別施策、そして成果指標が連動しているのか疑問である。他の項目でも無理やり統計指標を持ってこざるを得ない部分があると思うが、例えば「豊かな心」を指標で測るのは違和感がある。指標は必ず入れないといけないものなのか伺いたい。

事務局 点検・評価を含めて、エビデンスを求められた場合にここが適切かという観点で設定した。指標がない方がよいという意見もありがたいが、客観的な評価も位置づけていきたいと考えている。

## ② 学校教育2

基本施策1-8：教育DXによる教育情報化の推進【新設】

委員 現状と課題の表について、どのような調査なのか伺いたい。

事務局 この表は、文部科学省などが実施している調査に基づいている。これはすべての教職員が対象であり、本人の申告による4段階評価の活用状況の調査である。

委員 どの程度できれば「活用している」と言えるのかという基準があると、安心して答えられるし、信頼性も高まる。

事務局 この指標の活用について、回答内容がどれだけ実態に近い形で今後5年間見ていけるかというところの、アンケート回答への教育委員会の学校や子どもたちに対する説明の仕方などを検討する必要がある。DXは非常に重要なので、客観的な視点ではなく実態に合った形になるように内部で検討する。

#### 基本施策1-9：グローバル化への対応

委員 指標について、国際理解教育の推進や外国語能力の向上という目標に対して、指標が英検受験率だけでは指標として不十分であるため、子どもたちの英語に対する興味関心を指標にすることも検討していただきたい。

事務局 全国学調の中に関連項目があるため、アンケート回答の推移を見ながら、指標として適切なものを検討する。

委員 日本語指導の実施について、支援とは人の配置なのか、民間との連携なのか、あるいは教材の提供なのか、支援の中身を伺いたい。

事務局 日本語習得の支援の種類については、人の配置、民間との連携、教材の提供など様々な方法が考えられるが、これらを限定するものではなく、多様な手法を想定している。

#### 基本施策1-10：健やかな体を育む教育の推進

委員 食育指導について、指導方法を伺いたい。

事務局 栄養教諭が学校を訪問して食育指導を行ったり、学校の授業の中で保健の先生や地域の農産物を作っている方々と交流したりしながら、食の大切さを学ぶ機会を設けている。限られた時間の中で、保健の先生や栄養教諭が協力して食育指導に取り組んでいる。保護者の方々にも食の大切さを意識してもらい、学校での食育指導に関心を持って、家庭でも一緒に取り組めるような仕組みが今後重要になってくる。

委員 部活動の地域移行が進められると思うが、部活動に入ることによってスポーツをする機会が多かったが、今後は強制ではなくなるため、運動やスポーツをすることが好きな児童生徒の割合94%は現実的に考えると厳しい数字ではないか。

事務局 確かに部活動の地域移行という形で、中学校の部活動は強制ではなくなって

きているが、逆に言えば、やりたいことを自由に選択できるという状況にある。学校にない競技やスポーツでも、自分がやりたいものを選べる時間が取れるようになっており、地域部活動などを通じて、体を動かすスポーツをやりたいという自由度が広がることも期待できる。この指標は「やっているかどうか」ではなく「好きかどうか」を問うものであるため、指標に設定した。

委員 現状と課題の中に「健康診断の未受診者がいる」という記述があるが、これを健康教育の中に入れるのであれば、個別施策の「学校との連携」のところでその取り組みをするというイメージなのか。また、未受診の問題を健康教育で解決するのであれば、指標として未受診率をゼロに近づけるという指標を設定すべきではないか。

事務局 指標として持てるかどうかも含めて内部でもう一度検討する。

#### 基本施策1-11：質の高い幼児教育の推進

委員 幼保小連携に関する合同研修会について、子どもたちが入学前に小学校を訪問するような交流はどうなっているのか。

事務局 地域性もあり、一関小学校などはいろいろな園から子どもが来るので、全部に対応するのは難しい。逆に地域によっては、特定の保育園から特定の小学校に行くケースもあり、そこであれば隣同士なので年に何回も交流できる。そこも含めて、カリキュラムの基本を市の教育委員会で示し、あとは地域の特性に合わせて作っていくのが一番現実的である。

委員 小学校側から「こういう経験をしてきてほしい」という要望を各園に出すことはできるのか。そのようなすり合わせを年に2回の先生たちの話し合いで行うということか。

事務局 大規模な学校では、様々な園から子どもがくる。年2回の研修会では、各学校区でグループを作り、小学校側の担当者と幼稚園・保育園の担当者が集まって、お互いの状況を共有しながらカリキュラムを作っていく。昨年度から始めているが、まだ100%には至っていないので、様々な施設に呼びかけて参加を促している。令和12年度までには、このような取組がスタンダードな形になり、全ての施設が連携できるようにしたい。

#### 基本施策4-2：教育機会の均等確保

委員 日本語支援が必要な子どもたちへの対応はどこに含まれるのか。経済的理由や地理的条件だけでなく、外国籍の子どもたちへの支援も必要である。

事務局 日本語教育については前段の施策1-9の方で触れているが、教育機会の均等という観点から外国籍の子どもたちへの支援をどう位置付けるかについては、

ご意見として承り、内部で検討する。

#### 基本施策4-3：安全・安心で持続可能な教育施設の整備

委員 「災害時には避難所となることから、安全性の確保が重要です」とあるが、避難所として機能するための対策についても言及した方が良いのではないかと。マニュアルの整備なども含めて検討していただきたい。

事務局 ハード面の記述になっているが、ご意見をどこかに反映できるか検討する

### ③ 社会教育

#### 基本施策2-1：社会教育の充実

委員 成果指標の部分だが、現状値と目標値が同じということなのか。

事務局 現在、社会教育の事業においては、事業への参加者が少ない状況であり、また、従来参加していただいた高齢の方や女性の方なども働きに出ているため、なかなか当初のターゲットとしていた層が少ないということで、まずは現状（維持）を目指すという考え方である。

委員 目標設定が消極的ではないか。運営する側が積極性を失うかもしれない。

事務局 グラフを見ていただくと、例えば事業の参加人数についてはコロナで落ちてしまい、そこから回復はしているものの、そこまでは達していない。なかなか従来のターゲットとしていた主婦層や高齢の方の人数が少ないということで、今回はその現状を目指すという考え方である。

#### 基本施策2-2：家庭と地域の教育力向上の推進

委員 グラフのボランティア参加人数について、増加傾向にあるのではないかと。

事務局 参加人数の増加は、実施校が増えたことによるものである。令和4年度については、コロナの影響もあり、ボランティアや学校の活動が変わってしまった。コロナ禍では参加者が減少したということで、今後は回復を目指している状況である。

#### 基本施策2-4：図書館機能の充実

委員 保育園やこども園への貸出しも行っているはず。知らない人も多いと思うので、そのことも記載した方がよい。

#### 基本施策3-2：子どもの読書活動の推進

委員 不読者率の調査に、調べ学習での読書は含まれているのか。情操教育だけでなく「調べる楽しさ」や「調べ方の指導」といった内容も盛り込むと、特に高校生の不読者率改善につながるのではないかと。

#### 基本施策2-5：博物館等機能の充実

委員 博物館の改修や増設計画は今後10年で必要ないという考え方か。

事務局 資料収蔵庫が狭い課題はあるが、具体的な計画は未定である。

委員 成果指標の「共通入場券の発行数」は、目標値を設定した根拠（コロナ前の水準に戻すなど）を明確に記載してはどうか。

基本施策 3-1：文化財の保存と活用

委員 個別施策に「計画的な修復」とあるので、成果指標にも修復目標を入れるべきではないか。

事務局 予算の関係で年度ごとの対応となり、明確な目標設定が難しい。

10 担当課 教育委員会事務局教育総務課